

# 今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

○7月22日～

先週は円高が進み、ドル／円も155円台まで下げましたが高値から6円以上も下げているので、そろそろ下げ止まってもよさそうです。

トランプ氏は銃撃事件の後も活動を続け、正式に共和党の大統領候補に指名されました。

そして、バイデン大統領はコロナ陽性ということで、民主党の大統領候補はどうなるのかまだわかりません。一部ではバイデン大統領に選挙戦から撤退するような圧力もあります。

トランプ氏が銃撃事件の後に勢いづいていることもあり、ほぼトラ(トランプ氏が大統領選挙で勝利)を予想するマーケット関係者も増えています。

トランプ氏とバイデン大統領の政策が真逆ということもあり、11月までは身動きが取りにくい状況です。

トランプ氏はドル高を嫌い、ドル安円高政策に動くという予想もあります。

先週も対ドルで円安、人民元安について発言しています。

ただし、トランプ氏はインフレ(物価高)を問題にしているため早期の利下げには反対のようです。米国の利下げは9月開始という予想が増えていますが大統領選まで利下げは見送られるという見方が強まればドル高要因となります。

そして、日本が今月にでも利上げに動くという予想もあり、円高要因が増えてきています。

また、河野デジタル大臣の利上げ要求発言などで円高になるなど不安定な動きとなっています。

しかし、今の状況で大幅に円高に動く材料があるわけではなく、1週間ほど続いた円高の流れに変化が出てくる可能性もあります。

株価も先週は大きく下落しているため、今週はリスク回避的な動きがおさまるかどうかポイントになりそうです。

気になるニュースとしては、米国が中国に対する半導体規制でさらに厳しい規制を検討というものです。ナスダックなどが大きく下げています。

規制が強まれば、今まで株価を押し上げてきた半導体関連から投資資金が逃げ出す可能性もあります。大統領選の前にバイデン陣営が中国に対して厳しい対応をすればマネーの流れが変わってくるかもしれません。

そうなると、リスク回避的な動きが加速する可能性があり、下げが続く展開もあり得ます。

今年は、年初から日経平均も上がり続け、為替も大きく円安が進み、すでに行き過ぎ相場の状況にあるだけに、逆回転の動きが出るリスクは警戒した方がいいかもしれません。

## ● テクニカルで見た重要ポイントは？

## 今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

### <ドル/円>

先週のドル/円は155.3円あたりまで下げて、その後戻して157円台でマーケットが終わってま  
す。このまま156円台を維持できれば上昇が期待できそうです。

上値は、157.8円を超えれば158.8円あたりのレジスタンスが意識されます。

ここも超えれば再度160円をトライする動きになりそうです。

下値は、157円を割り込んでも156円台にもサポートがあり、先週安値の155.3円を割り込む動  
きにならないければ円高はおさまりそうです。

155.3円を割り込めば154.5円あたりにサポートがあります。

### <気になるクロス円>

クロス円も先週木曜の18日に底打ちしたペアが多く、先週安値を割り込む動きにならない限り、今  
週は上昇していく動きに期待したいです。

週足が2週続けて陰線になっているペアも多く、流れに変化が出るかどうか日足と合わせて見てい  
きたいです。

8月に大きく円安や株高になることは考えにくく(マーケット関係者が夏休みで取引が活発になり  
にくい)、どちらかと言えばリスク回避的な動きを警戒しながら慎重に取引したいです。

\*クロス円とは円との通貨ペアの総称:〇〇/円というような通貨ペアのことです。

### <今週のファンダメンタル?>

日本では7月東京都区部消費者物価指数などがあります。

米国では7月リッチモンド連銀製造業指数、6月中古住宅販売件数、7月製造業・サービス部門・総  
合PMI(速報値)、6月新築住宅販売件数、4-6月期GDP(速報値)、前週分新規失業保険申請件  
数、6月耐久財受注、6月個人消費支出(PCEデフレーター)、7月ミシガン大学消費者信頼感指数  
などが発表されます。

欧州ではユーロ圏とドイツで7月製造業・サービス業PMI(速報値)、ドイツで7月IFO企業景況感指  
数などがあります。

ほかには、英国で製造業・サービス業PMI、カナダで政策金利の発表などがあります